

《様々な方面でCOT理論を活用》

市で導入しているコーディネーショントレーニング（COT）が全国的にも広がりを見せており、ピアノや看護技術など、様々な方面でCOTを使った教え方を学ぶ動きが出ています。

近年、看護学校では、学生がシーツをきれいに敷くことや薬液を注射器にうまく入れることなどができないだけでなく、注射の準備で自身がケガをしてしまうという問題が起きています。以前は、最近の生徒がふざけたりサボったりしているために技術が身につかないと考えられていましたが、原因は今の若者の身のこなしの悪さにあり、COTによって改善が図られることが分かりました。簡単なCOT理論の活用で、血圧計のマンシェットを巻く技術が劇的に上達したなどの報告も寄せられています。



表郷幼稚園では副園長先生が率先して園児にCOTを行っており、表郷小学校では全学年の授業でトレーニングを行うとともに、普段の学校生活でもCOT理論をいかすため、荒木秀夫博士を学校に招いて幼稚園と合同で研修会を行いました。また、高齢者や幼児の運動教室にも活用され、少しずつですが着実にプロジェクトが進行しています。



▲表郷幼稚園でのトレーニング

★次回「中高年に対する効果」をご紹介します。

本庁舎学校教育課 内2365



未来へつなごう「仁」のこころ

白河戊辰戦争回顧録

第7回 戊辰戦争の考察文③

《阿部内膳と十六ささげ》

白河の戊辰戦争の中で謎の1隊があった。「十六ささげ」と称された棚倉藩の遊軍部隊である。仙台藩の鳥組とともに奇襲攻撃を得意として新政府軍を大いに悩ませたと伝えられているが、資料がほとんど無く、その実態は不明であった。

唯一残された次のような記録がある。棚倉藩砲兵隊長吉田国之進の実弟五十幡繁次郎が大正14年（1925）、74歳の時に

戊辰戦争当時の記憶をもとに書いた手記である。これによれば、西洋嫌いの藩士たちが宇迦神社（棚倉町）に集まり、それまでの家禄をすべて返上して、一日玄米五合のみを受け取ることにした。隊の名前を「誠心隊」とし、隊長阿部内膳の指揮下、鉄砲組8人、弓組7人の和装16人の別手隊を編成して出陣したという。

慶応4年（1868）5月1日の激戦の日、白河城下東の八竜神を守っていた阿部内膳は、狙撃され重傷を負い戦死した。内膳は負傷したまま人に助けられて阿武隈川を渡って金勝寺に逃れた。あるいは、負傷後に付近の畑の中に潜んで、その後助け出されて棚倉に移送された後死亡した、などの説もあるが

定かではない。

残された十六ささげ隊が活躍するのは、新政府軍が占拠した白河を奪還するための戦闘の中であつたと考えられる。

戦争終結後、棚倉藩の戦争責任者は阿部内膳とされ、新政府に報告された。そのため内膳の家は家名断絶の上、家禄を没収され、きわめて不幸な境遇を強いられた。

現在、内膳は市内常宣寺に静かに眠るが、白河戊辰150周年記念事業のバツジとして「十六ささげ」が顕彰されているのがせめてもの救いであろう。
 （文・植村美洋）



▲宇迦神社（棚倉町）で十六ささげが密議を行いました



▲常宣寺（向新蔵）に阿部内膳の墓があります